



表舞台と舞台裏

永田円了

Mind and Heart

表舞台はスポットライトに照らされ、周囲の目の中にある。一方、舞台裏は、楽屋で化粧を落とした役者のように、自分自身に戻る世界。この二つの世界を私たちは、人生でどのように扱ったらいいのか。

歌手生活 50 周年を迎える郷ひろみ(66)は、テレビ番組のインタビューで語った。

「人に見られている方が楽で、人に見られていない方が、大変なんです — 自分の目があるから」「だから、見られていない時を、ちゃんとしたい」。

60 歳を越えてもハツラツと、エネルギー溢れる郷ひろみの人生哲学とは、そういうことだったのか。明るい表舞台を生きるために、舞台裏を大切にすること。納得である。

樋口耕太郎の感じた痛みの正体とは

10 年間赤字だったホテルを 2 年足らずで、1 億 3,000 万円の利益を生む高収益企業へと再生した樋口耕太郎氏。ある時テーマパークで受けた優しい最高のサービスに、何か心の中で痛みを感じた。

こんな素晴らしいサービスを受けているのに、何故がっかりしたのか。その意味が分からなくて、ずっと考え続けた。

ある時ハッと気づく。そうか、彼女の優しさは目的じゃなく、手段だったんだ！これって、思いやりを手段ではなく、目的にしない限り、絶対になくならない傷なんだ、と腹にストンと落ちた。

会社全体がこの意識改革に取り組んだ時、従業員のやさしさにウソがないと、無意識レベルでお客さんの心に達した。結果、お客さんの評価がどっと上がり、10 年間赤字続きだったホテルが、2 年足らずで 1 億以上の黒字に転換した。

一般的にこの世の中、コーヒーを飲みに行っても、レストランへ行っても、素晴らしいサービスが受けられる。しかしそれは結局どれもこれも全て、手段だということが無意識に分かっている。でも、このホテルに来るとウソがないことに気づく。何かが違う。はっきり分からないのだけれど、来年もまた来たい、という気持ちになる。

手段と目的の差し替え、思い切って舞台裏を表舞台にしてみようという大胆な哲学、心が躍る。

ノンフィクション作家・柳田邦男、息子の死で学んだこと

小さい頃から自分の感情を抑えながら生きてきた柳田氏。社会にでてからもノンフィクション作家として、他人の不幸を本にしてきた。息子の洋二郎さんは、そんな父親に言う。「親父は作家だろう。作家だったら、世の中のことを他人事のように書くんじゃなくて、自分の地獄を書けよ！！」

心を病んでいた洋二郎さん(25)の、死をもつてのメッセージは、柳田さんの心に突き刺さった。物事を対象化し、自分を棚に上げ、一番身近な家族のことに目を向けずにいた自らの生き方を、根本から問い直すことになる。表舞台を最優先で生きてきた者に対する、舞台裏からの強烈なメッセージであった。



<事例 DVD>

郷ひろみ／僕にはオンとオフがないんです
受賞スピーチで妻を 4 回褒める／スティーブ・カレル
樋口耕太郎／テーマパークでの優しさに痛みを感じた
作家・小川国夫／幸福は過去にある
山田ズーニー／根本思想とは
柳田邦男／次男洋二郎さん(25)の死
大江健三郎／大きな和解 vs. 小さないささかの和解
ユングのラストメッセージ／人の内側で何が起きているのか
歌・ゼレンスキーとオレナ夫人「エンドレスラブ」

円了のホームページ：www.enryo.jp



ゼレンスキー氏